

木村まさひろです。

木村
まさひろ後援
会ニュース
発行・編集:
木村まさひろ
後援会

次の世代により良い社会を

受け渡す責任 果たします

新人議員 始動!

昨年、8月6日実施の高畠町議会議員選挙で、お陰様で当選させていただきました「木村 雅博(きむら まさひろ)」です。地域と町のパイプ役となり、皆様の声を市政に反映させるべく活動してまいります。



木村まさひろの3つの約束

農業と地域と教育を柱に

わたしの決意

長引くコロナ禍で、私たちの社会環境は非常に厳しいものになりました。様々な問題が表面化しました。何十年、何百年に一回の自然災害も毎年のようにニュースになり、少子高齢化が進み重大さを増す社会問題、国の安全保障の柱であるはずの食糧やエネルギー政策のもろさ、これら現実の前に無力さを感じることが少なくありません。しかし、次の世代に、この社会

私の掲げる政策の基本は、農業と地域と教育です。これからの明るい未来に向けて、高畠町の更なる発展を願い、この3つの柱を立てて課題解決に全力で取り組むことを誓います。

ホームページ開設

皆様に、タイムリーな情報をお伝えするため「木村まさひろオフィシャルサイト」を開設しました。新聞の裏面にURLとQRコードを載せております。

また、フェイスブックとインスタグラムによるSNSの情報発信も随時おこなっております。是非ご覧ください。



2 地域のつながり

ふたつめは、地域(ひと)のつながりです。激動する社会だからこそ、地域内のネットワークが重要です。困難に立ち向かう力は、人と人との繋がりの中から生まれてきます。

1 農業の再生

ひとつめは、農業(ムラ)の再生です。基幹産業の農業を立て直すことが地域経済再生のカギです。もはや農家だけの問題でなく、消費者と流通加工業者、関係機関の連携が必要なのです。

■主な対策 安全で美味しい地元食材を学校給食へ／新規就農者の総合窓口開設／ほか

3 次世代育成

そして、次世代育成です。直面する課題に立ち向かう力を身につける、青少年教育に力を注ぎます。自らが自らの手で自らの未来を開いてゆく力を育成し、新たな仕組みを作ります。

■主な対策 高畠町らしい育成事業を推進／男女共同参画社会に向けて／ほか

木村雅博 議員



動画配信はこちらから



有機米を 学校給食へ採用する計画は

町長 特別栽培米の提供から始める

問 高島町で有機農業に取り組み始めて50年。令和5年11月には、有機農業50周年記念事業を開催し、高梨町長がオーガニックビレッジ宣言を行っている。
町は、その具現化も含めて、6年度から5年間の有機農業実施計画を策定し、学校給食に有機農産物を活用することを柱に据え、生産と消費の目標を掲げている。町産有機米の米飯給食について、どのように取り組み始め、最終年には何回実施するのか。

町 高島町で有機農業する計画である。6年度は、年間の3分の1、最終年度には、年間通して提供できるような目指していく。有機米、有機農産物は、年数回程度の提供から始める。
有機米給食の具体的な実施回数
問 全食を地元産で供給する計画はすばらしい。
町 具体的な実施回数と購入玄米量は、また、ここで言う特別栽培米とは。

問 有機米については3日で9俵、特別栽培米は、60日で180俵を予定している。特別栽培米は、初中期の除草剤使用回数を1回程程度認めることを軸として考えている。
有機米作付面積の増加、地元流通の施策は
問 有機米給食の先進地千葉県いすみ市では、生産者ゼロから始め全量を地元産有機米とし、地域内需要を作り産地を形成した。
町 我が町の実施計画でも、どう作付面積や生産者を増やし、地元流通へつなげていくのか、その手立ては。

問 慣行栽培から、特別栽培や低農薬農産物の生産に取り組めるよう、高島町独自の認証制度を確立する。有機栽培の裾野を広げるために、環境づくりを進めていく。
児童生徒への食農教育の手立ては
問 学校給食に地元有機農産物を供給する取り組みを通して、どのように食農教育へ結びつけていくのか。
町 また、消費者としての保護者に「地元産有機農産物を選ぶ」行動変容をどう促していくのか。その手立ては。

問 食育授業では「食の大切さ」「食と健康」など、関係機関と連携を図りながら実施していく予定である。
町 保護者に向けては、学校やPTAの研修の一環として講演会等を開催し、広く普及していく。



▲子どもの健康は安全な給食から

きむらまさひろ
6番 木村雅博 議員



①漬物、観劇

②次の世代により良い社会を受け渡す責任を果たします。高島町の更なる発展を願い、「農業・地域・教育」3つの柱で課題解決に全力で取り組むことを誓います。

昨年8月6日の選挙の結果、お陰様で当選することができました。ありがとうございました。

9月1日から高島町議会議員として活動をスタートしております。

左の写真は、「たかはた議会だより No.161 令和5年10月20日号」の議員の紹介ページから

① 趣味 ② 4年間の抱負

9月1日に改選後の初議会が行われ、各役職が決められました。

私は、総務文教常任委員会に所属しました。任期は2年です。総務課、企画財政課、税務課、教育委員会等の所管事務を審査します。

右の写真は、「広報たかはた No.1068 令和5年10月号」の議会人事紹介ページから

総務文教常任委員会



NEW 広報広聴常任委員会

今回から、議会広報特別委員会が常任委員会となり「広報公聴常任委員会」となりました。

議会だよりの編集を担当するこれまでの「広報部」と、意見交換会等、町民の皆さんの声を聴く機会をつくる「広聴部」から成ります。私は、その広聴部を担当します。皆さんの声をお聞かせください。

高島中学校視察

令和5年11月21日(火) 総務文教常任委員会で、中学校視察を行いました。学校側の説明を受け、授業の様子を見学し、学校給食をいただきました。(大変美味しかったです。) 右は、給食用食材を提供いただいている生産者の紹介欄です。



行政視察（人材育成）

令和6年1月31日から2月2日にかけて、総務文教常任委員会で人材育成をテーマとした行政視察を行いました。和歌山県の田辺市と有田川町を訪問しました。

これからの町の人材育成事業に活かしていきたいと思っております。

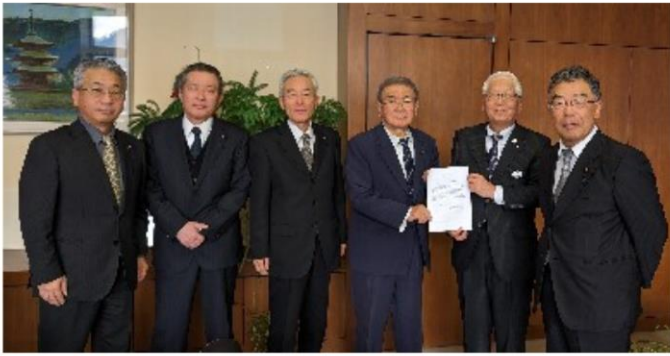


こぶしの会による 予算編成に向けた要望書

自主的な政策勉強会「こぶしの会」を毎月開催し、各回様々なテーマを掲げ研修を行っています。

昨年12月22日には、会で取りまとめた「令和6年度高島町予算編成に向けた要望書」を高梨町長へ手渡しました。

令和6年1月22日には、町から「要望に対する回答書」が届きましたので、内容を検討して引き続き取り組んで参ります。



沢口友愛会の新年会

2月14日、沢口公民館で行われた地元老人会の「沢口友愛会」の新年会にお招きいただき、楽しく有意義な時間を二緒させていただきました。

昨年5月に新型コロナが5類に移行して、徐々に元の生活に戻りつつありますが、人と人との繋がり希薄化や地域互助のしくみの簡素化など、コロナ禍の影響は簡単には拭い去ることはないでしょう。

しかしながら、こうした直接会での語り合いや、何かと一緒に取り組むことで、繋がり再生は確実に進むものと思います。



新人議員7人の勉強会 七星会

昨年8月6日の高島町議会議員選挙で初当選した7名の新人議員で、自主的な勉強会を毎月開催しています。

「七星会(しちせいかい)」と名付け、毎回、持ち回りで研修テーマと運営を担当、懇親会をほさみながら、議員としての力量を高める研鑽を積んでいます。

右の写真は、生涯学習館会場で私が担当した回、講師の金子勝先生(早稲田大学名誉教授)を囲んでの集合写真です。



SNS



木村まさひろ
オフィシャル
サイト

Instagram



フェイスブック



木村まさひろ
後援会
入会フォーム

プロフィール



- ▼ 木村雅博(きむらまさひろ)
- ▼ 昭和36年4月生れ 63歳
- ▼ 妻・娘二人・母5人家族
- ▼ 糠野目小・中学校、米沢興讓館高校、福島大学経済学部卒業
- ▼ 農産物検査員、有機JAS、特裁米、GAP認証担当
- ▼ 高島町連合青年団長、高島町青少年育成推進委員会、糠野目小/高島四中PTA会長、高島町環境アドバイザー、高島で公開討論会を開く町民の会代表、ほか

木村まさひろ後援会

事務所 〒999-2178 高島町大字上平柳1995-15

連絡先 090-1379-1721

ホームページ: <https://masa-kimura.com/>

電子メール: kimura@masahiro.name

